

馬頭観世音碑・供養塔

下川町内の公区会館の傍らには、数基の石碑が建っています。その一つに馬頭観世音（ばとうかんぜおん）の碑があります。

馬頭観世音とは仏教の中の六観音の一つで、馬が濁り水を飲みつくし雑草を食べ尽くすところから一切の魔や煩惱をうち伏せる観音として奈良時代より信仰されていました。しかし民間に広まったのは、江戸時代でこの頃になると馬頭をいただく形から、馬の守護や、死んだ馬の供養として建立されるようになりました。北海道の開拓でも馬は各家庭での開墾や日々の農作業、荷物の運搬、木材の搬出などを支える大切な動物で家族の一員であり、各地で建立されるようになりました。

町内には石碑が11基あり、多くは公区会館にあります。中には上名寄12線神社、道々愛別線と風連線の交差点にも建立されています。建立年代は昭和初期～40年代で、現存する最も古い碑は、写真の上名寄生活改善センターにある昭和3年建立のものです。

供養塔には、牛の慰霊のために建立した「牛魂碑」（川向公区研修センター）、「牛馬感謝之碑」（二の橋公区会館）もあります。